

2020年4月6日

学校法人平和学園
平和学園小学校
2020年度 学校だより 第1号
〒253-0031
神奈川県茅ヶ崎市富士見町5-2
TEL 0467-87-1662/0131
FAX 0467-87-0411
URL <http://www.aletheia.ac.jp/s/>

平和の花

実を結ぶ

年間聖句

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、私もその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

ヨハネによる福音書 15章5節

学園聖句『平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。』に加え、今年の平和学園小学校の年間聖句を上のように決めました。「農夫は神さま。ぶどうの木はイエスさま。枝は私たち。イエスさまに私たちがつながっていれば、豊かに実を結ぶことができる」と記されている聖句です。学園聖句を基に、イエスさまの木につながる私たちの枝に出来るぶどうの実（私たちの実）は、『平和を実現する実』なれるように、この1年間を過ごしましょう。

今、世界は新型コロナウイルスの対応で、生きるために忍耐することを要求され、日常が奪われ、ストレスがたまっている状態です。人間を取り巻く環境が日々悪くなってきていますが、新型コロナウイルスのワクチンが完成するまでの間、感染を防ぐことに専念しなければならない状況です。そうして、新型コロナウイルスによって、『人間のあるべき姿』について考えさせられています。世界分業・グローバル社会に移行してわかったことは、国際社会のもろさと危うさです。人間の命を維持するために、必要なもの以外を排除されている現状が、心の豊かさや思いやりの気持ち、やさしさを奪っているようにも思えてきます。

しかし、長い人類の歴史に学べば、不安が解消され、希望に満ちた新しい世界が見えてきます。ユダヤ教のラビであるトケイヤーは、著書『ユダヤ人の5000年の教え』の中で、「何が人間に一番必要か」について、「それは知恵を教え伝える教育にある」と具体的例を書いています。お金やモノは使えば無くなる。ユダヤ人のように国家が無くても、学問・知識に基づく生きる知恵と実践力があれば、どこでも生きて行くことができる。それには歴史を学び教え知識・知恵を伝える人と、継承し後世にその事を伝える人が必要であると述べています。ここに国家もなく世界に散らばって生きなければならなかったユダヤ人の知恵があります。日本人には200年以上鎖国で生き抜いたDNAがあります。そこにさらにキリスト教（イエスさま）の考え方や生き方が加わったらどうなるでしょう。学校は知識と教養から生きる知恵を生み出し、生き抜く力をつけるために存在しています。平和学園小学校の子どもたちは、隣人のことを考え、自分ができる事を成長に応じて実践しています。その将来も、知識と知恵の結集で平和を実現するために必要とされる存在です。どんな苦しい状況にあってもこの危機を乗り越える必然があります。

最後に聖書の言葉を掲載します。

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずで、神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。」

（コリントの信徒への手紙一 10章13節）

